

第5回「市民と市長のふれあいトーク」の内容（要旨）

と き 4月10日(水)

テーマ 子育てとメディアコントロール

参加者 長江真理子さん（山北）、森安恵津子さん（小原）、松尾冬美さん（東一宮）、
内田真梨子さん（沼）、徳田徳子さん（山北）

NPO法人みる・あそぶ・そだつ津山子ども広場（以下「子ども広場」）の5人が市長と意見交換を行いました。

仲間と一緒に子どもたちを健やかに育みたい

参加者からは「子ども広場」が文化体験や自然体験など、子どもたちを健やかに育む活動を行っていること、子どもを持つ親の仲間づくりや相談の場になっていることなどの紹介がありました。

また、5月20日に津山文化センターで「オズの魔法使い」、7月には、鶴山公園などで美作国建国1300年記念事業として「忍者あそび」などの催しを行うので、たくさんの親子に参加してもらいたいと話しました。

乳幼児期からのメディアコントロールが必要

参加者からは、テレビやテレビゲームなど、子どもが映像メディアに接する時間が増えると、コミュニケーション能力の発達の遅れなどの弊害が生じる恐れがあるため、外へ出て遊ぶ楽しさを知る機会を増やしていく必要があるとの指摘がありました。

そして、親にメディアコントロールについて理解してもらい、子どもには早い時期から規則正しい生活習慣を身に付けさせることが大切と話しました。

市からは、母子手帳の交付時や乳幼児健診時など、機会があるごとに保健師が啓発を行っていること、小学校でも、テレビを見る時間や寝る時間など、児童が目標を立てて実行する「チャレンジハッピーデー」の取り組みを行っていることなどを説明しました。

市長は、家庭、学校、地域、行政が協力をしながら、地域の宝である子どもたちを健やかに育てていく必要があると話しました。

